

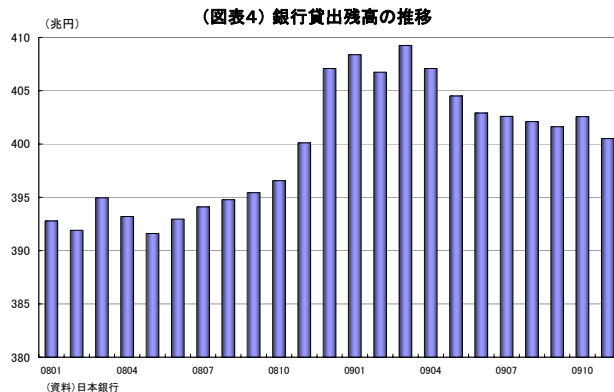
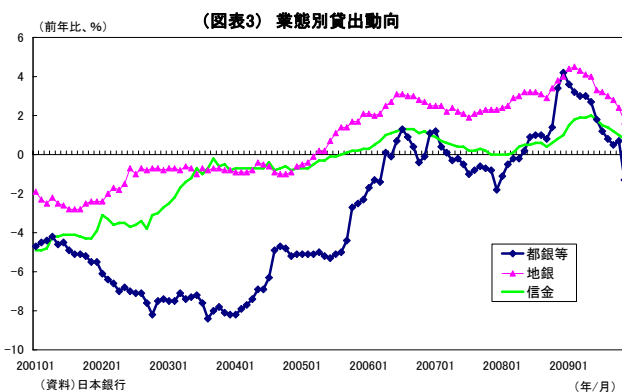
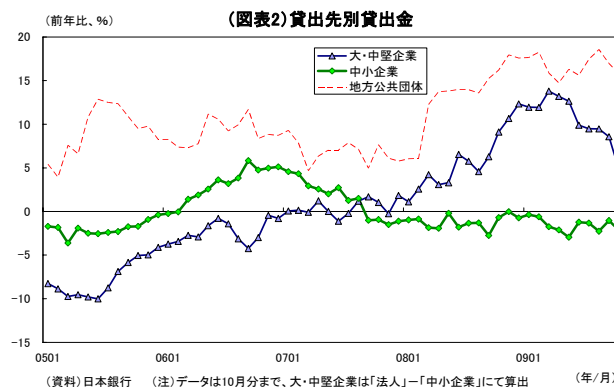
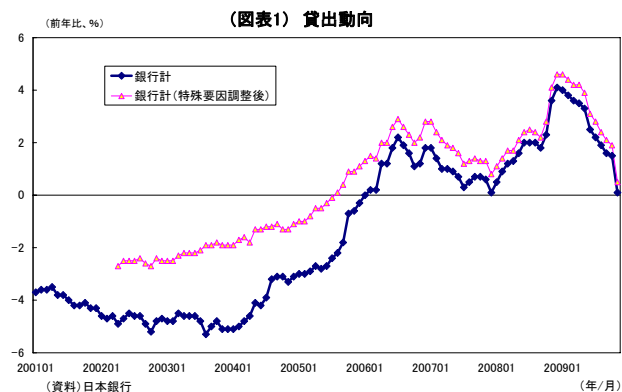
経済・金融 フラッシュ

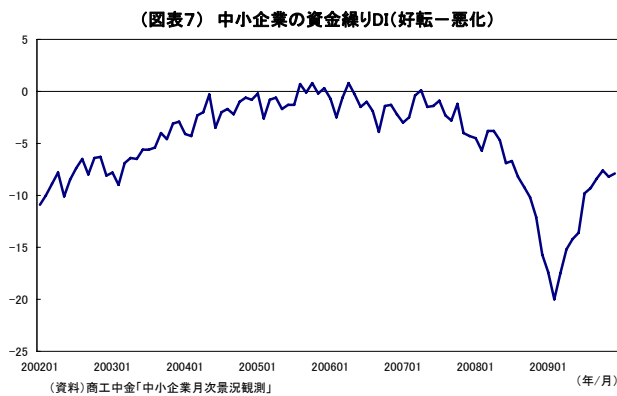
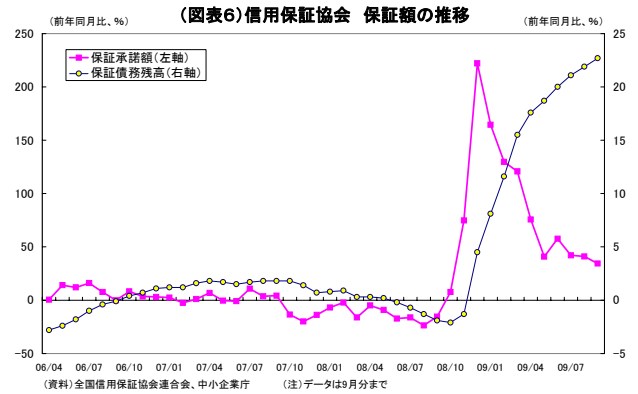
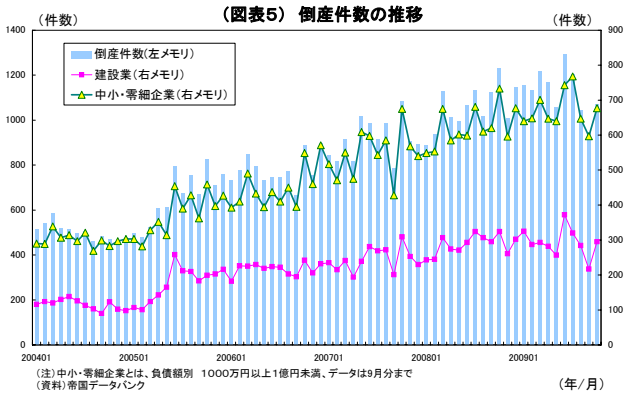
11月マネー動向： 銀行貸出の伸びは大幅に縮小、都銀はマイナスへ

経済調査部門 副主任研究員 上野 剛志
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：銀行貸出の伸びは大幅に縮小

日銀の貸出・資金吸収動向等によると、11月の銀行総貸出(平残)の前年同月比伸び率は0.1%(前月は1.5%)と11ヶ月連続で伸び率が縮小し、伸びはほぼゼロ水準となった。特に都銀等では▲1.3%とマイナスに転じている。比較対象である昨年11月はリーマン・ショック後の金融市場の混乱に伴う貸出の急増が起こった時期であり、その反動が出たというテクニカルな面もあるが、景気低迷の長期化に伴って企業の設備資金等の需要が低迷しており、銀行貸出残高自体が弱めに推移している(図表1~4)。



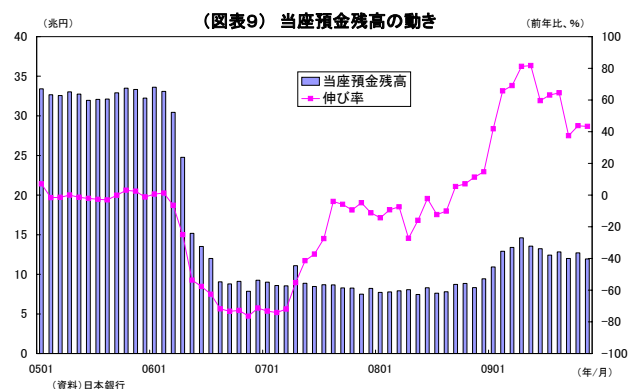
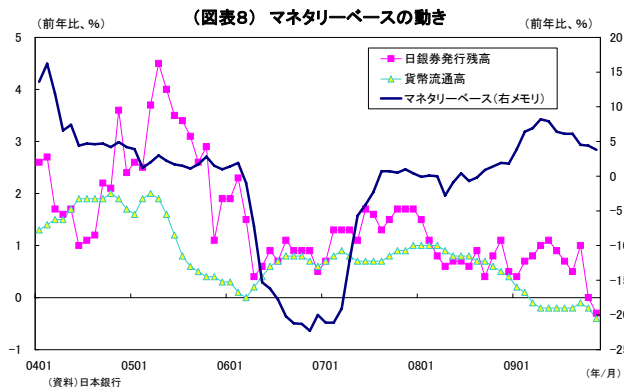


12月4日に中小企業の返済猶予等を金融機関に促す「中小企業金融円滑化法」が施行された。同法に強制力はないが、中小企業向け貸出は長期にわたり前年比マイナス圏が続き、中小企業の資金繰りが厳しいなかで貸出分野における最大の焦点となっており、今後の中小企業向け残高の動向が注目される。

2. マネタリーベース： 今後は拡大方向へ

日銀による資金供給量を示す11月のマネタリーベースは、前年同月比3.8%増となった。伸び率は縮小傾向にあるが、15ヶ月連続で前年の水準を上回った。日銀当座預金残高が前年比39.5%増と高い水準を維持している(図表8,9)。

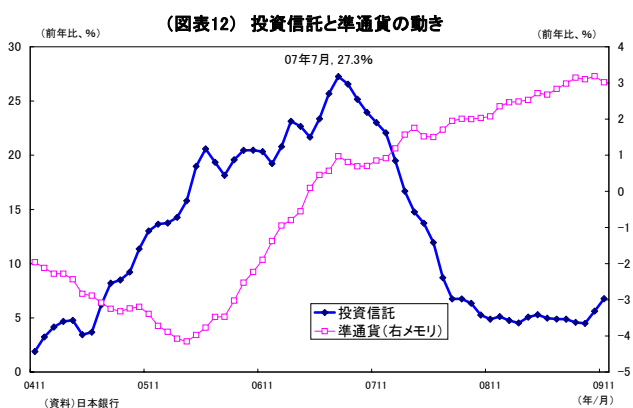
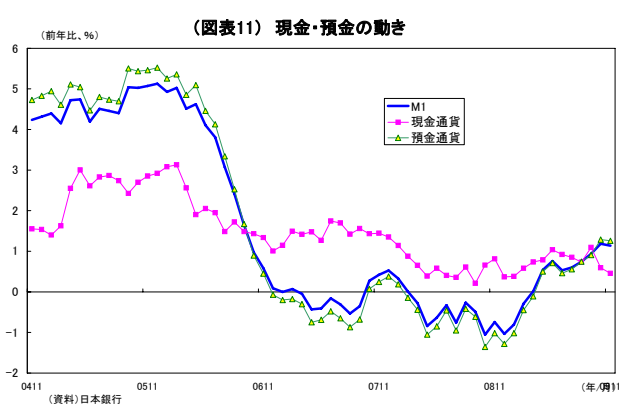
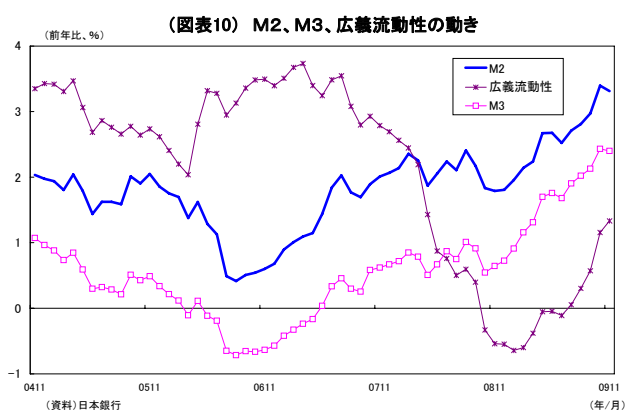
日銀は1日の臨時決定会合において、10兆円程度の新しい資金供給オペの導入を発表、金融緩和姿勢を強めている。マネタリーベースは今後拡大方向で推移する可能性が高い。



3. マネースtock: 通貨供給量の伸びは高水準

通貨供給量の代表的指標である11月のM2(現金、国内銀行などの預金)平均残高は前年同月比3.3%増(前月改定値は3.4%増)、M3(M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む)は同2.4%増(前月は2.4%増)となり、ともに高い伸びが続いている(図表10)。定期預金などの準通貨の伸びが高水準で推移していることが主因だが、普通・当座預金といった要求払預金も増加傾向にある(図表11)。

M3に投信や外債等を含めた広義流動性も前年比1.3%増(前月は1.2%増)と伸び率が拡大している。引き続き準通貨の高い伸びが続いている一方で、投信の伸び率も足元上昇してきている。リーマン・ショック以降に資産にダメージを負った家計の安全資産選好は引き続き根強いが、一方で景気の底打ち感から、投信などのリスク資産にも一部資金還流の動きが出てきたようだ(図表12)。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。